

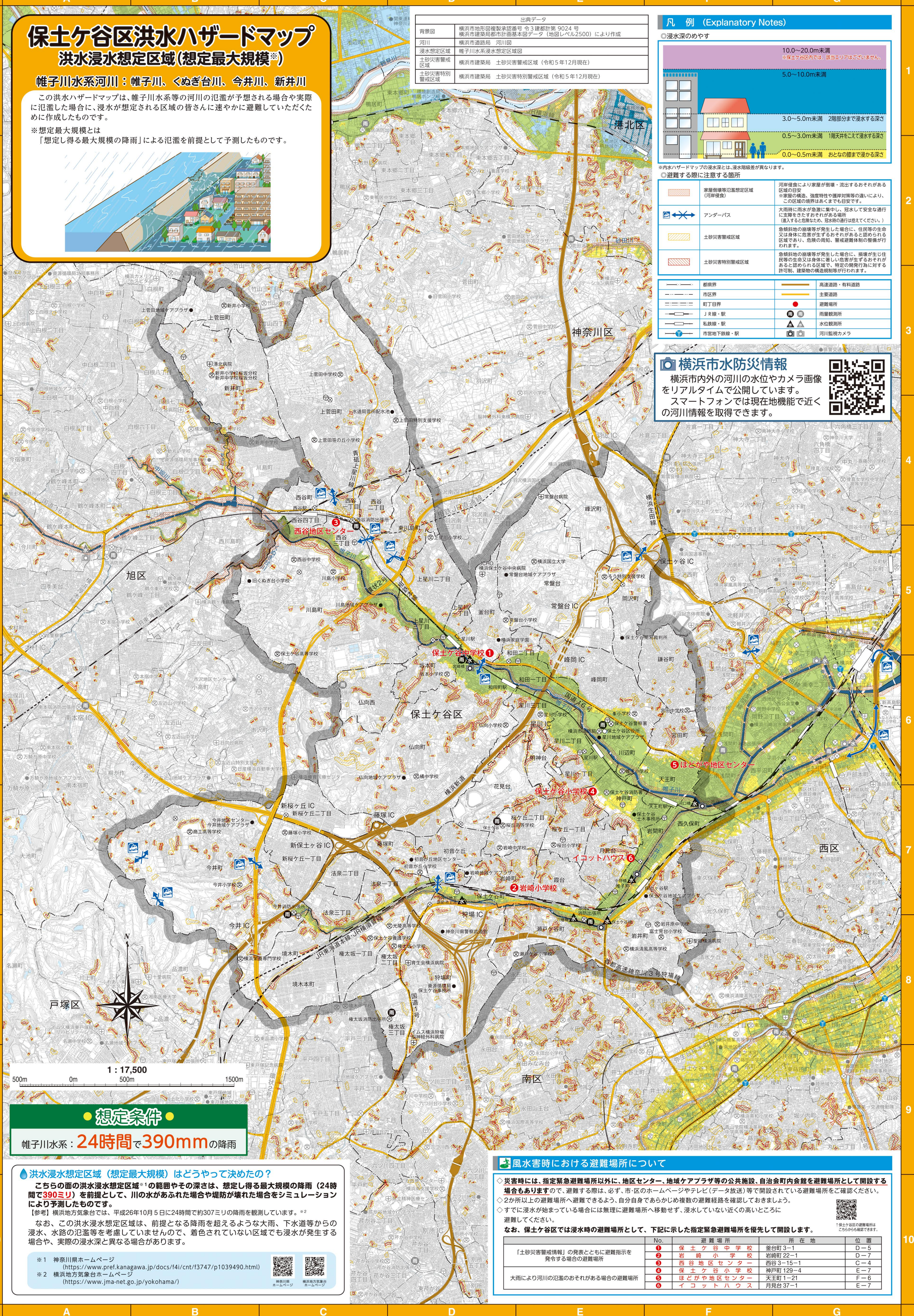
保土ヶ谷区洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域(想定最大規模※)

帷子川水系河川：帷子川、くぬぎ台川、今井川、新井川

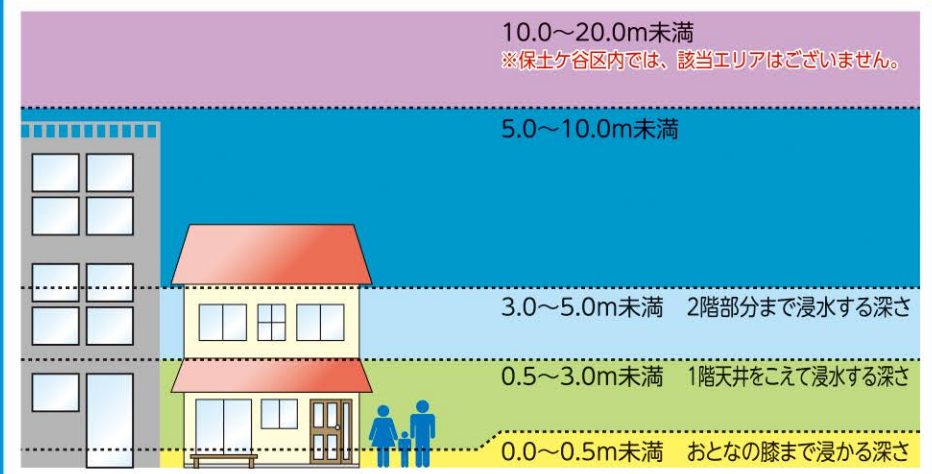
この洪水ハザードマップは、帷子川水系等の河川の氾濫が予想される場合や実際に氾濫した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは
「想定し得る最大規模の降雨」による氾濫を前提として予測したものです。



凡 例 (Explanatory Notes)

◎浸水深のめやす



※内水ハザードマップの浸水深とは、浸水開始後が異なります。

◎避難する際に注意する箇所

	家屋倒壊等氾濫想定区域 (河岸侵食)	河岸侵食により家屋が倒壊、流出するおそれがある区域の目安 ※家屋の構造、強度特性や備蓄対策等の違いにより、この区域の境界はあくまでも目安です。
	アンダーパス	大雨時に雨水が急激に集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所 (通行止めとなる場合、見守りの要はあります。)
	土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。
	土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可、建築物の構造規制等が行われます。
	都県界	高速道路、有料道路
	市区界	主要道路
	町丁目界	避難場所
	J R線・駅	雨量観測所
	私鉄線・駅	水位観測所
	市営地下鉄線・駅	河川監視カメラ

横濱市水防災情報

横濱市内外の河川の水位やカメラ画像をリアルタイムで公開しています。
スマートフォンでは現在地機能で近くの河川情報を取得できます。



想定条件

帷子川水系：24時間で390mmの降雨

洪水浸水想定区域(想定最大規模)はどうやって決めたの？

こちらの面の洪水浸水想定区域※の範囲やその深さは、想定し得る最大規模の降雨(24時間で390mm)を前提として、川の水があふれた場合や堤防が壊れた場合をシミュレーションにより予測したものです。

【参考】横浜地方気象台では、平成26年10月5日に24時間で約307mmの降雨を観測しています。※2

なお、この洪水浸水想定区域は、前提となる降雨を超えるような大雨、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮していませんので、着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

- ※1 神奈川県ホームページ
(<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4i/cnt/f3747/p1039490.html>)
- ※2 横浜地方気象台ホームページ
(<https://www.jma-net.go.jp/yokohama/>)



風水害時における避難場所について

- ◇災害時には、指定緊急避難場所以外に、地区センター、地域ケアプラザ等の公共施設、自治会町内会館を避難場所として開設する場合もありますので、避難する際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所をご確認ください。
- ◇2か所以上の避難場所へ避難できるよう、自分自身であらかじめ複数の避難経路を確認しておきましょう。
- ◇すでに浸水が始まっている場合には無理に避難場所へ移動せず、浸水していない近くの高いところに避難してください。

なお、保土ヶ谷区では浸水時の避難場所として、下記に示した指定緊急避難場所を優先して開設します。

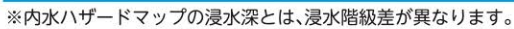
No.	避難場所	所在地	位置
1	保土ヶ谷中学校	釜ヶ丘3-1	D-5
2	岩崎小学校	岩崎町22-1	D-7
3	西谷地区センター	西谷3-15-1	C-4
4	保土ヶ谷小学校	神戸町129-4	E-7
5	ほどがや地区センター	天王町1-21	F-6
6	イコットハウス	月見台37-1	E-7

※想定最大規模とは
「想定し得る最大規模の高潮」による氾濫を前提として予測したものです。

[illegible]

◎浸水深のめやす

◎浸水深のめやす



◎避難する際に注意する箇所

	家屋倒壊等氾濫想定区域 (氾濫高)	堤防決壊等に伴う氾濫による家屋の倒壊・流出するおそれがある区域の目安 ※堤防の構造・強度特性や護岸対策等の安全により、この区域の境界はあくまでも目安とする。
	アンダーパス	大雨時に雨水が氾濫集中し、冠水して安全な通行に支障をきたすおそれがある場所 (進入するに危険なため、冠水時の通行は控えてください。)
	土砂災害警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる区域であり、危険の通知、警戒区域の警報が行われる。
	土砂災害特別警戒区域	急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、損壊が生じ住民等の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる区域で、特定の危険箇所に対する許可制、建築物の構造規制等が行われる。
	都県界	 高速道路・有料道路
	市区界	 主要道路
	町丁目界	 遊覧場所
	J R線・駅	 雨量観測所
	私鉄線・駅	 水位観測所
	市営地下鉄線・駅	 河川監視カメラ



高潮とは

台風や発達した低気圧が通過する際、海面(潮位)が大きく上昇することがあり、これを「高潮」といいます。

高潮は、主に「気圧低下による吸い上げ効果」と「風による吹き寄せ効果」が原因となって起こります。また、満潮と高潮が重なると高潮水位はいっそう上昇し、大きな災害が発生しやすくなります。

① 気圧低下による吸い上げ効果

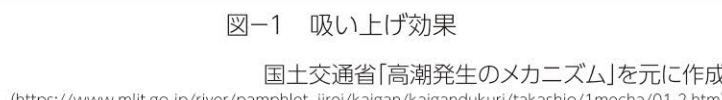
台風や低気圧の中心では気圧が周辺より低いため、気圧の高い周辺の空気が海水を押し下げ、中心付近の空気が海水を吸い上げるように作用した結果、海面が上昇します。

気圧が1ヘクトパスカル(hPa)下がると、潮位は約1センチメートル上昇と言われていました。

例えば、それまで1000ヘクトパスカルだったところへ中心気圧950ヘクトパスカルの台風が来れば、台風の中心付近では海面は約50センチメートル高くなり、そのまわりでも気圧に応じて海面は高くなります。

図-1 吸引上げ効果

国土交通省「高潮発生メカニズム」を元に作成
(https://www.mlit.go.jp/cps/cps_j/cps_j_001.jsp)



②風による吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。

この効果による潮位の上昇は風速の2乗に比例し、風速が2倍になれば海面上昇は4倍になります。

また、風が吹いてくる方向に開いた湾の場合、地形が海面上昇を助長させるように働き、特に潮位が高くなります。



想定
条件

中心気圧 910hPa、暴風半径 20,30,40,75km、
移動速度 20,30,40,50,53,60,73km/hの台風

～避難情報が発表されていなくても、身の危険を感じる場合は、速やかに避難を開始してください～

警戒レベル	とるべき行動	避難情報 (横浜市)
警戒レベル5	【命の危険 直ちに安全確保！】 ●災害が発生・切迫してあり、命を守るための最善の行動をとる。	緊急安全確保
警戒レベル4	警戒レベル4までには必ず避難！ 【危険な場所から全員避難】 ●直ちに身の安全を確保できる場所へ避難する。 ①(情報)の入手方法と日課からの備え(避難の考え方)もお読みください) ●避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難する。	避難指示
警戒レベル3	【危険な場所から高齢者等は避難】 ●避難に時間をする人(に高齢者の、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は、安全な場所へ避難を開始する。 ●その他の人は、家族などと連絡、持ち出し品の用意など、避難の準備を開始するとともに、危険だと思ったら早めに避難する。	高齢者等避難
警戒レベル2	【自らの避難行動の確認】 ●避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。 ●避難情報の把握と、避難手段の確認をする。	—
警戒レベル1	【災害への心構えを高める】 ●防災気象情報等の最新情報に注意する。	—